

I 実践

1 研究主題

豊かな人権感覚を磨き、人権意識を高める教育活動の工夫

(1) 主題設定の理由

本校では、県や市の教育目標や人権教育の視点を受け、人権教育の経営方針として「学校教育全体を通して、人権尊重の精神の寛容を目的とする教育活動を推進するとともに、心身の健全な発達を図り、誰とでも公正公平な態度で接していこうとする児童を育成する」ということを掲げている。その実現を図るために「豊かな人権感覚や人権意識を醸成する教育活動の工夫と年間指導計画の工夫・改善」を努力点としている。

(2) 研究の内容

ア 職員研修の充実

職員間の人権意識の向上と資料の整備を図る。

イ 教科学習経営の中で

各教科での学習活動を通して、互いに良さを認め合ったり尊重し合ったりしながら、一人一人の児童の良さを伸ばしていく学び合いが展開できるようにする。

ウ 道徳の時間の中で

個人の尊厳についての自覚を深めることができるように、生命尊重の心、感謝の心、思いやりの心、公正・公平な態度などを中心に人としての生き方や感性が身につけられるように努める。

エ 特別活動の中で

児童の自主的・主体的な活動を重視した様々な活動の中で、互いの良さを認め合い協力し合うことができるようにする。

オ 学年・学級経営の中で

一人一人の居場所があり、自他の良さを感じていけるような温かな関わり合いの場を作りながら、個の良さを生きる望ましい学級集団を作っていくように努める。

カ 総合的な学習の時間の中で

体験が気宇終夜課題解決学習の中で、人間的なふれあいを通して、思いやりや平等、人権の精神の育成を図る。

キ 外国語活動の中で

他国の文化を理解・尊重する態度を育成するとともに、自国の文化や歴史を尊重する態度の育成に努める。

ク 家庭・地域への啓発

家庭・地域との連携を積極的に図り、人権教育への理解・協力が得られるようにする。

2 実践の内容

(1) 職員研修の充実

ア 職員の人権教育への意識の向上

- ・職員会議での生活指導等の共通理解の機会をもった。
- ・校内映画鑑賞会で視聴するVTRを全職員で話し合って決めた。

(2) 教科学習の中で

ア 第1学年 生活科「なつのあそびを楽しもう」「ふゆのあそびを楽しもう」

交流センターと連携して、地域のお年寄りに季節ごと昔から伝わる遊びを教わりながら、昔ながらの遊びや地域のお年寄りとのふれあいを楽しみ、関心を高めることができた。子どもたちは、お年寄りから教えてもらう目新しい遊びに夢中になって取り組み、お年寄りも子どもたちとのふれあいを楽しんでいた。

イ 第2学年 生活科「レッツゴー！町探検」

町探検のグループは、子どもたちだけで構成し、保護者には、安全確保のために道路の横断を必要と箇所立哨指導してもらった。その後、町探検に協力してもらったお礼の手紙と共に自分たちが種をまいて発芽させたミニトマトの苗を子どもたちが分担して渡しに行った。

ウ 第4学年 親子学習会「助産師が伝えるいのちの教育」

保健体育科の学習「育ちゆく体と私」で第2次成長期を迎える子どもたちの体の内部の変化について学習したのを受け、いのちのかげがえのなさ、大切さ、すばらしさを伝え、児童の自他共に大切にすることをはぐくむと共に親子の絆を深めることを目的として行った。児童は、生命の神秘さ、大切さを改めて知り、親子の絆を感じることができたようだった。

エ 第5学年 総合的な学習の時間「ワールドキャラバン」
 公益法人茨城県国際交流協会を通して2名の方を講師に迎えて、母国(自然・子ども・生活・学校・遊び・民族衣装・文化など)について紹介してもらったり、一緒に歌やゲームを楽しんだりして外国の方と直接ふれあえる機会をもち、外国の文化に興味・関心を高める機会となった。



(2) 道徳の時間の中で

ア 全校生 「うしろの席のおちあいくん」をVTR視聴
 視聴の後、各教室で感想文を書いたり、話し合ったりした。

イ 年1回の道徳の授業公開

保護者にも子どもたちの道徳性や道徳教育の大切さを理解してもらう機会をもつようにしている。

ウ 第3学年 人権教育「いじめは絶対悪い」

人権擁護委員の講師を招き、人権啓発のビデオを視聴し話し合うことを通して、人権擁護に対する意識を高め、実践への意欲を高める機会となった。

(3) 学級活動の中で

ア 構成的グループエンカウンター教室

(ア) 県事業の緊急スクールカウンセラー等派遣事業におけるスクールカウンセラーによるグループエンカウンター教室が4年生から6年生の各学級で行われた。

(イ) 各学級の実態に合わせ、自己肯定感を高めたり(6年「へんしーんわたし大好き」、言葉が相手の与える印象を考えたり(1・2年「ちくつと言葉・ふわつと言葉」などを行った。

イ 帰りの会での友だちのよいところを発表し合う

帰りの会の中で、一日の友だちとの生活を振り返り、友だちのすばらしい行いを称賛したり、親切な行いに対する感謝の気持ちを言葉にしたりしている。

(3) 学校行事の中で

ア JRC(青少年赤十字)の登録をして2年目になる。計画委員会の児童が中心になり、5月に1年生のJRC登録式と各学級の活動宣言を行った。

《プログラム》

1 開会の言葉

4 JRCバッジの受領

2 歌「空は世界に」

5 誓いの言葉の唱和

3 各クラスの活動宣言

6 閉会の言葉

イ 創立記念集会及びクリーン作戦Ⅰ

7月8日の創立記念日を前にその一週間前から計画委員会の児童により学校の沿革について紹介があり、当日は、児童集会が行われ、「河小クイズ」により河原子小への関心を高める機会となった。また、愛校心と共に郷土愛の育成を目指して「河小クリーン作戦Ⅰ」が行われた。1年生から4年生は校内を、5・6年生は郊外に出てゴミ拾いや草取りなどを行い、学校や地域をきれいにしようという気持ちや学校や地域を温かく見守っていこうという気持ちを行動で示す機会をもった。

II 今後の課題

各教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間、学級経営、生徒指導とあらゆる学校生活の中で人権について考える機会や体験活動の機会を設けてきた。また、毎月第2週目にあいさつ運動週間を設け、あいさつの大切さや進んであいさつをしたりあいさつをされたりしたときの気持ちよさを体感できるようにしてきた。このような活動の中で、児童たちは日々人権について考える機会をもっているが、何気ない言動で友だちを傷つけた、トラブルになったりすることも少なくない。今後も人権感覚を育てていくために教育活動の充実を図っていきたい。さらに、地域や身近な大人としての教職員も常に児童たちの人権教育の手本となるような言動がとれるように研修と啓発を充実していきたい。

III 人権コーナーの設置の様子

他学年の優秀作品などにふれることができる連絡通路の一角に人権コーナーを設置し、児童が書いた人権メッセージや人権便りなどを掲示し、人権に対する意識を高められるようにしている。

